

## 第7回未来ビジョン会議

- 1 日 時 平成29年11月27日（月）午後7時から午後8時30分
- 2 場 所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員13人（欠席5人）  
市長、若山副市長、佐野副市長、教育長、市長戦略監、企画部長
- 4 意見交換 内容は以下のとおり

（行政経営課長）

ただいまから、平成29年度第7回未来ビジョン会議を開催いたします。

本日はご多用の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

※欠席者報告

それでは、小野市長から挨拶を申し上げます。

（市長）

皆さん改めましてこんばんは。

今回は、大変お疲れのところお集まりいただきまして、お陰様で7回目の未来ビジョン会議ということになりました。また、前回の未来ビジョン会議では、素晴らしいご提案をいただきましてありがとうございました。発表、提案されました意見について、早速、市の施策に反映できるものについては反映できるように動き出しております。このことから、私が市長として掲げる伊東の魅力を発信し、文化を高め、観光の振興と産業の育成によってみんなが夢と夢を形にできる、そして、未来を拓くために、この会議を重要な会議として位置づけて、ボトムアップによる市政運営を進めていくためにも、これからもさまざまな立場による若い世代の方々の貴重なご意見を伺っていきたいと思っております。

今回は、これまで開催した未来ビジョン会議の振り返りを含めまして、皆様が考える未来ビジョン会議の今後の進め方やあり方を一緒に検討し、さらによい会議に成長させていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

（行政経営課長）

ありがとうございました。

それでは意見交換に入りますが、改めて、本日の未来ビジョン会議のテーマにつきまして、杉本市長戦略監よりご説明申し上げます。

（市長戦略監）

さきほど市長からお話がありましたが、本日で7回目になります。

今までは、シティプロモーションへの意見や子育てしやすいまちづくりをテーマとした施策の提案をしていただきまして、誠にありがとうございました。委員の皆様からいただいたご意見、ご提案につきましては、できる限り今後の市の施策に反映していくようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

このことを踏まえまして、本日の会議のテーマとして、今後の未来ビジョン会議の進め方また、方向性について、今後はどのような会議にすればよいのかという内容での意見交換を

ぜひお願いをしたいと思っております。委員の皆さんもこの未来ビジョン会議にだいぶ慣れてきたかなと思いますが、ちょっとまだ緊張もございますので、これからどういう形で進めていけばいいのか、市の取り組みや施策、そういうものも詳しく知りたいとか、何でもどういう意見でも構いませんので、皆様から、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたいと思っております。

一緒にこの会議を充実させていただきたいと思っておりますので、ぜひご意見を参考にさせていただきます。

それではよろしく願いいたします。

(行政経営課長)

ありがとうございました。

それでは、ただいまから意見交換に入りますが、要綱第4条第2項の規定に基づきまして、小野市長が座長を務めますのでよろしく願いいたします。

(市長)

それでは、座長として会議を運営させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、第7回未来ビジョン会議の意見交換を開始いたします。繰り返しになりますが、本日は、今後の未来ビジョン会議の進め方やあり方について意見交換をお願いいたします。突然ですが、今回は発表の順番をいつもと逆周りにしたいと思っております。A委員さんから申し訳ないですが、時間に限りがありますので、いつもどおり5分程度でお願いしたいと思っております。まずトップバッターでA委員、お願いいたします。

(A委員)

私は、グループワークの際に、グループの皆さんとお話しをしたりとかそういう機会がありまして、そういうふうにメンバー同士で話し合える機会があると、すごく交流も深まります。せっかくこれだけのいろいろな立場の方が見えているので、グループワーク的なスタイルで進めたらどうなのかなというふうに思います。それで、テーマについてですが、市のほうからこれについて皆さんの意見を聞きたいとか、アイデアを聞きたいとかっていうことを投げかけていただいたりとか、もちろん委員のほうから、こういうテーマについて話し合いたいというようなことがあれば、それについてグループでディスカッションしながら意見交換をしたり、集約していくというようなやり方で進めたいと思っております。

こういう全体での形ですと、私もすごく緊張するほうですし、話しをするのが苦手なので、小グループになりますと、すごく話しやすくなりますので、そのようなやり方を取り入れていただけたらと考えております。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

何回やってもこういう全体の形式での発言は緊張しますね。一定の緊張感はいいんですけど、思っていることが伝えられないと、会議の本来の意義が薄れてしまいますので参考にさせていただきたいと思っております。

テーマについては、できればグループワークでやろうということですね。そういったときに、例えば、この間は子育て支援についてというテーマを投げかけましたけれど、そうではなくて、自分たちで独自に、さあ何をやろうとか、何をやってもらおうとか、何をアイデアとして出そうかというようなところから進めていくのも1つの手ではないかなと思っていますけれど、どうですか。

(A委員)

そういう形でもいいと思います。

(市長)

はい、では参考にさせていただきたいと思います。

それでは、B委員お願いします。

(B委員)

皆さんこんばんは。よろしくお願いします。

今回は、進行について考えてきました。

この会議の趣旨が、若い世代のいろいろな人たちの意見を聞くということなので、ブレインストーミングという、みんなで意見を言い合って批判などはしないという方法を採用するのもいいやり方かと思いました。グループワークやディスカッションですと、どうしても答えを1つに絞らなければいけないので、いろいろな意見があっても淘汰されてしまって伝わらない意見も出てくるというところでブレインストーミングを選びました。こういう1人ずつ発表する形式ですと、皆さんで意見をたくさん言ってもらえると思うんですけど、他の人と意見を高め合ったり、他の人との意見の繋がりとかができないので、そのためにもいいと思います。

あとは、グループでやる場合には、余りに大人数だと発言できない人が出てきてしまうので、前回のように3グループくらいに分けたほうがいいと思います。テーマについては、具体的な提案はありませんが、最初の会議で委員の皆さんが発言した内容の中でいろいろな提案などがあったと思うんですけども、それによってグループ分けをし、1回の会議で1つのテーマではなくて、グループごとに異なるテーマを扱ってもいいのかなと思いました。ただ、最初に挙げたブレインストーミング自体が意見の出し合いなので、発表には向いていなくて、どうやって市長たちにお伝えできるかということを考えたんですけど、1つは同席していただき、一緒にお話を聞いていただけるか。もう1つは、KJ法といって、ブレインストーミングで出た意見をそれぞれグループごとに大まかに分けていくという方法があるので、そこに分けたところでざっくりとしたものにはなりますけれど、それで発表をするかというところなんです。

今回、今後の会議について、いろいろな進め方を考えていたのですが、進め方を自分でイメージしてみると、どんな方法を採用してもどうしても緊張してしまうんですね。委員の方でもお話ししたことのない方もたくさんいますし、子供っぽい言い方をすると、市長たちのように偉い人がいると緊張してしまうので、皆さんで交流をして意見を出しやすくするような環境作りが必要だと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

私がいろいろと思うのは、委員の皆さんは、各団体からの代表のような形で参加していただいている方が多いわけですが、そういう小グループというか、個々の団体の皆さんのご意見というのもそれぞれあると思うんですよ。それぞれの団体の中で、未来ビジョン会議でこういうことを伝えてほしいというようなことが仮にあるとして、そういう場に私が行くのは重いということならば、同世代の行政経営課を中心にこの会議を進めていますが、そういう方が参加をして、フリートーキングをしていただき、その結果を1つのたたき台としてこの会議に持ち寄るとか、そういう方法もあるのではないかなということは以前から思っていたんですけど、皆さんもお忙しいのにこうやって集まっていただいて、さらに仲間に声をかけて集まっていただくというのなかなか大変かと思っていたんですけど、今の意見を総合していくと、例えば、この会議も1時間半という設定でやっていて、余計なことを言うと長引くからやめておこうとか、あの人と違うことを考えているけれど、今言うところとちょっと余り良くないなということがあるとすれば、もっとフリートーキングができるような環境が必要だなというふうに思っていますので、今、いろいろとお話しいただいたことも参考にしながら、今後の進め方につなげていきたいと思っています。

それでは、C委員よろしくお願ひいたします。

(C委員)

皆さん、よろしくお願ひします。

A委員さんやB委員さんの意見はすごくいい意見だと思っています、私も両委員さんの意見に大賛成です。まず、私もグループワーキングを行うほうが良いかなと思います。先週、先々週とA、B、Cと3つのグループに分けて、テーマは子育て支援や教育に関する施策について発表したと思います。統一したテーマではなく、例えば、Aグループは観光であるとか、Bグループは産業とか、Cグループはまた別のテーマを与えて、それぞれが別の違ったテーマについて発表をする。せっかく人数も多いわけですし、3つぐらいのグループに分けられますので、同一のテーマではなくて、それぞれ異なったテーマを事務局から与えていただいて、それについてグループで発表していくのがよいのではないかなと感じておりました。

あと、委員の選出団体の名簿を見ると、やはり、いろいろな方々がいろいろな種類の団体から選出されておりますので、各団体における関係部分で詳しい方もいらっしゃると思いますので、そういった方々を中心にグループ内で話していくのも1つの手ではないかなと考えております。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

グループワーキングがいろいろとということをしていただきまして、テーマは別々にということであれば、またそれを発表していただくときに、いろいろな角度からお話が出てくるのではないかと思います。私の公約として、例えば、観光については、今の時代に合ったものに変えていくと、継承すべきものは継承していきますけれども、やはり今の時代に合っていない観光施策があると判断すれば、大胆に変えるというふうに思っておりますし、同じように

なりますけれど、産業についても、この会議でも相当たくさんのご意見をいただいて、実体感のある生の声というか、私からしてみたら1回りぐらい若い世代の皆さんの生の声ですから、やはり自分と違う感覚とか、そういうものを教えていただいている部分もありますので、テーマを分けて、ありがちな福祉施策とかそういうものは国の政策にのっとって進めていく、そして、できることを伊東市で独自にやることを、例えば、子育て支援の一環としていろいろと考えてはおりますけれども、いろいろなテーマがあれば、この場で皆さんに発言をいただいたことが極端に言えば安倍総理に伝わったということも出てこようかと思しますので、そういうことも含めてテーマをそれぞれに分けていくことには賛成したいなというふうに思います。

それでは、D委員お願いします。

(D委員)

これまでの委員の方々からもお話がありましたけれども、先日行ったグループ形式での方法は、私としても感触は良かったので、1つのテーマに関して時間が取れるのであれば、あのような形がより深い意見が出るのではないかと思います。今回、3つのグループに分けましたけれど、また、委員ごとに複数のテーマで行ってはどうかという話もありました。確かに個々の団体の代表ということで各々の委員の専門分野というものがあると思うので、それに応じた意見を出すのに、そういうグループ分けという方法があっても良いかと思います。

以上です。

(市長)

Dさんはいとう漁協の代表として参加されていますが、今日、静岡県の水産審議協議会という会議がありまして、私は焼津市に行ってきました。それは、概ね20人ほどの会議で、県内もしくは県外のいろいろなNPOの活動をしてる方とか、大学の教授とか、コープとか、そういう消費者団体の代表の方など、いろいろな方が集まって、主に水産についての話をしました。そこでは、テーマは1つですから、すごくわかりやすい。私も伊東のことも発言をしましたし、逆に、東京の方がいとう漁協の波止場の宣伝をしてくれたり、テーマが決まっていた方が結構やりやすいですね。

ただし、それだけ人数がいますと3時間近く時間かかってしまうのですね。ですから、それをグループごとに分けていく。例えば、発表したときに、またそのディスカッションができるようなことも残しておけば、そこに上塗りをしていくということもできるかと思しますので、参考にさせていただきながら、特に産業を磨いていくというのは大事なことで、Dさんが所属している、いとう漁協のさまざまな施策もこんな機会にも発表していただくのも1つではないかと思しますので、ぜひ、またそれも含めてお願いしたいと思います。

それではE委員お願いします。

(E委員)

皆さんこんばんは。

意見を述べる前に、参考なんですけれど、プロモーションの話をさせていただきたいと思います。先日、ほかの会ですが、セミナーがありまして、グーグルの方がいらっしゃって、セミナーを受けてきました。まさに未来ビジョン会議でやった、シティプロモーションについての内容で、他の市とか村とか、そういうところのプロモーションをグーグルが手がけて

いるという話がありました。動画については、街を紹介する普通の動画とかでは、やはり皆さんは見てくれないということで、動画に話題性を持たせて伝えていくということがすごく大事だという話を聞きました。伝え方を間違えてしまうと、ただ本当にそのプロモーションを作ったお金だけ出てしまってもったいないと、だからといって、今風とかというのではなく、伊東市が持っている良いものを生かしながらも話題性を持った動画をつくるということだったのですけれど、いろいろ見て惹かれるものがたくさんあるんだと思ってお話をいただきました。例えば、グーグルでしたり、インターネット関係とかということについては、私たちはちょっと疎いところがありますので、そういう方を招いて、そういう話を聞きながら、伊東市についていろいろと考えていってもいいのかなと思いました。

そして、皆さんが言われたように、グループワーキングの手法はかなり良かったと思います。私もいろいろと皆さんと意見交換をさせていただいて、皆さん本当にすごいなと感心させられました。

参考までに、講師を招いてそのことに対していろいろと意見交換をしてもいいのかなというのがあります。あと、未来ビジョン会議ですから、伊東市の未来についていろいろと語るのもすごくいいと思うので、本当に先の10年後、20年後の未来についても皆さんから何か意見をいただいて、それに向かって何かいろいろと話し合っただけで事業を立てていければと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

話題性を持った動画作りですね、ただお金を払うようなことではなくてということになると、伊東にはいろいろな素材があるじゃないですか。どれを打ち出すかということになってくると思うんですけど、例えば、観光ですね、表に出していくといっても、どれだということになると思うんですけど、例えば、E委員がその方の話を聞いて、これはいいなっていうひらめきみたいなものはありましたか。

(E委員)

セミナーの中で、自己満足のプロモーションではなく、やはりその人に合ったお客様の目線というか、誰をターゲットにしていくかということがすごく大事だということでは言われていました。例えば、ある村のプロモーションでは、外国人向けの目線で動画を作っていました。日本のこういうところを見たら外国人が感動を得たりとかするような目線で作っていました。私たちの伊東市も温泉地ですので、なぜ伊東へ来るのかっていう観光客の意見とかをいろいろと聞いて、そういった目線で誰をターゲットにするかということが大事だと思うので、観光客のお客様の目線に立って、そういうものを作ったほうが良いと感じました。

(市長)

最近、欧米系の外国人の方が伊東の街中に多く訪れるようになり、リュックサックとかを背負って歩いていると思います。ですから、これまでの大陸からの観光客だけではなくて、遥か彼方からいろいろな方が来るようになったという感じはあると思います。また、そこをターゲットにしていくとするならば、街中の外国語表示ももう少ししっかりしなければいけないということも、日ごろからいろいろな方から言われています。そういうことも含め

ていくとプロモーションビデオありきではないと。やはり市の施策としてターゲットを英語圏の人にも対応していこうということで、漢字だけではないものに変えていくことの1つのきっかけにはなるんじゃないかと思うんで、それも含めて、これからのシティプロモーションにおいては参考にさせていただきたいと思います。

また、講師を招くということも、それも1つ、いいことだと思います。さきほど言ったように、例えば、1つのテーマに絞っていったときに、そのことについて話をさせていただいて、また、それぞれの思ったことや講師に対して意見を述べていくということが将来の施策につながってくると思いますので、それも課題としてあげていきたいというふうに思います。

それでは、F委員お願いいたします。

(F委員)

私が考える今後の未来ビジョン会議の進め方なんですけれど、前回までは、子育て支援について考えてきたので、次は高齢者の現状の問題とか、そういうものを考えていったらいいなと思います。あと、この間、ちょっとした5分ぐらいのテレビ番組で東平商会さんのいとうナゲットが取り上げられてPRされていたので、伊東ブランドとなるものをさらにいろいろ作ってみたり、あと、この会議の委員たちで1つ、2つ考えてみたりとか、学生と市のお店が協力して新たなものを作ってみたり、伊東市のPR活動となるものを私たちが考えていけたらいいなと思います。

あと、この未来ビジョン会議の委員たちが1つのチームでもあると思うので、熱海市に負けないような伊東市のPR活動をしていけたらいいなと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

具体的に高齢者問題にも触れていったほうがいいということですが、まさしく今、伊東市内に65歳以上の方が28,500人ほど住まれております。比率で言うと40.7%ということで、これはどんどん増えていく。元々のこの会議を設置するに当たっての発端が、少子化が進んでその流れが止まらないというところから始まっていますので、現実的には、高齢者の方に安心して暮らしていただくための施策も考えなければいけないと思います。親の世代とかそのまた上の世代ということになりますけれども、それも、また議題になれば良いことではないかと思いました。

また、いとうナゲットですね。按針サミットで大分県の臼杵市に行ったときに、普段のメニューでいとうナゲットを出しています。「ポルトグラ」というお店ですけども、テーブルに座りますと、メニューにいとうナゲットが幾らって書いてあって、そのことを知って行ったのですが、そこの方が本当にいとうナゲットというか、伊東の食材にすごく興味を示していただいているというところで大変嬉しく思いましたし、そういうブランディングが観光をPRすると同時に、同じように全国に伊東の商品があれば、それならば行ってみようということに繋がるのではないのかなと実感しました。

それで、今週、菓子祭りというイベントをロビーで行いました。菓子商組合の皆さんが、伊東の職人技を披露しながら、普段よりも安価な値段でお得なサービスをしていただいて、多くの方が訪れたんですが、そのときに、市役所でやらなくても街の中にインドアのイベン

ト広場があればいいねという話が出まして、確かにないなと。例えば、よく使うのは観光会館の本館じゃなく別館、ああいうところでそういうことをやりますけれども、イベント的にできる場所がないかなと。私が臼杵市に行った際に、臼杵市の人口は伊東市より遥に少なく、たしか5万人以下だったと思いますが、そこには街の中心地に観光情報を発信するところもありますし、地域のコミュニティFMですけれど、その基地もありまして、そこにNHKの大分局も便乗してくれているというようなところが何箇所もあったんですね。それを見た際に、小さい規模でもそれができるんだということを感じまして、伊東も同じように、よく探してみればいろいろと遊休地というか商店街もありますよね。そういう場所を活用する方法ということも、これから考えていきたいということを昨日のイベントでも感じましたし、まさしく、さっき言ったそういうところでまず新商品を市民が知って、宅配で親戚に送ったり、何かお付き合いで知人に使うことによって、それが広がっていくという流れもできるんじゃないかなっていうことを昨日考えたものですから、まさしくF委員の言われたこととつながったと思いますので、それも含めて、今後のテーマの進め方にも関係付けていきたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、G委員お願いします。

(G委員)

こんばんは。

進め方については、前々回のようなグループワーキングで、1グループが4人ぐらいでも良いのかなと思ったんですね。そうすれば1人1人の意見の量が多くなるのではないかなと感じたのと、これまでが、シティプロモーションの動画についてで、その次が子育て支援ときたので、今度は来遊される方、直に伊東に来ている方に対して、伊東に来てよかったと思えるようなまちづくりの方向性について、少しやってみても良いのかなと思いました。というのは、去年か一昨年の観光動向調査の結果を見ると、何が足りないのかというところで、街中が活性化していないというような意見が1番多かったですね。来てくれたお客さんが、変な意味じゃないですが、街が死んでいるじゃないですけど、生き生きしていないっていうことで、それではまた来たいとは思わなくなってしまうので、その辺を考えていけたら良いなと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

G委員は、バルの実行委員会から代表として来ていただいておりますが、私もバルに参加するとその日はすごく賑わっていて、あとで聞くと、参加されているお店の方からも「すごく良かったよ」という声を聞いています。また、それに伊東市ももっと深く関わって、形を変えてもっと頻繁にできないかなということも考えていました。また、G委員にいろいろとお伺いしたいと思っておりますけれど、そういうことの1つ1つが活性化につながるというのも間違いないんですけど、すでに先駆者として、具体的にG委員さんたちのグループが独自に進められていますよね。僕の記憶では1回目には市が補助を、でもそれ以外は独自でやるよと。「こっちはちゃんとできるんだぜ」みたいなところがあったと思うんですよ。だけど、せっかくだから、それをもっと盛り上げようというところで、市も一緒にな



って何かを手伝う。例えば、商工会議所もそうですし、あと観光協会と旅館組合とか、そういうところも観光で来たお客さんも含めた上で街の活性化につなげるためにも、ぜひ、今までの経験をより具体的に出していただきたいと。グループワークも4人がいいよって言うだけで、これはすごくわかりやすく、この間はたしか5人から6人という感じだったと思うんですけど、それを具体化して行って、このグループのテーマはこれだよということで分けていくというようなことでいろいろな話ができる。言うてみれば、今、伊東市役所で市のことで大きなことを進めていく中で、このメンバーにも役割分担ができていくということも、現実性があるかどうかはまた別ですけども、アイデアとしては良いことではないかなと思いますので、参考にさせていただきたいと思います。

また色々とお知恵を拝借したいと思います。

それでは、H委員、お願いします。

(H委員)

こんばんは。

そもそも僕らは、物を生み出したりすることについては余りやっていないです。ましてや、市のことなんて、この会議に参加しているから考えているけれど、今まで自分の生活とか自分の周りが見えるけれど、それ以外のところは余り見ないで生活をしています。ですので、未来を考えるとしたら自分軸でしか考えられない。自分の周りとか地域でしか考えられないけど、行政の方たちは、そういうところで全体を見ながらお仕事をされていて、全体を見てどうすればいいかっていう問題も認識されていると思います。なので、少子高齢化だからと世の中では一般的にこう言っていると思いますが、実際、どのような少子高齢化で、何がどうなっているのかっていうのは、自分の周りで見ると、確かに子どもはいないよねっていうぐらいなところだと思うんです。

そして、行政の方たちは、みんなでどこら辺が足りないんだろうかっていうデータもお取りになっていると思いますし、一般論についてはたくさんご存知だと思うんですね。僕らはそういうことを勉強していないので知らないです。なので、ぜひ、そういうところを教えてください、僕らにも問題意識を持たせてもらいたいと思っています。

なので、さきほどからグループワークでしたり、いろいろな意見があったと思うんですけど、そういう手法を使いながら、ぜひ、行政の方たちが僕らに問題提起を、「こんな未来はやばいんだぞ」みたいなことを教えていただけるだけで、一生懸命に必死になって考えると思うんですね。それが、例えば、さきほど言われましたような偉い方たちが必死に訴えてくれると僕らは必死になって考える。例えば、同年代の若い方に言われても「お前も同じじゃないか」って形になってしまい、偉い方に言われると、「やらなければ」って思うんじゃないかなと思います。

それと別に、具体的な現実的な話になると、やっぱり若い者同士で話をしたほうが生み出しやすいとは思いますが、問題提起の部分は、まず、市長を始め、せつかく副市長も教育長も部長たちも皆さんいらっしゃるんで、そういう方たちに、「お前らこういう未来っていうのはこんなにやばいぞ、知っているのか」ということを教えていただくと、僕たちは自分らの無い知恵を絞り、いろんなことを考えられるんじゃないかなと。そこで、産業別でしたり、専門別に分かれたりとかしながら討議をすると、みんなの思いがまとまってきて1つ物ができるんじゃないかなって思います。

僕らの団体は、小さい商売をやっていますが、結局、地域活性といっても行政のやられていることに比べるとお金もないし、どちらかというと、どうやっていいかわからない。ですから、協力をしていくためにも、やっぱり理解をすることが必要だと思います。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

私も一人でやはりいろいろな思いがあり、前職の県会議員の職を目指したり、その中でもいろいろなセクションがある中で、自分の得意分野、私も自分で創業して会社を作って、何もないところからスタートして、周りにもそういう人たちが大勢います。恵まれた環境で先代が作った会社のオーナーになったような人は少ないわけで、また、例えば、大きな企業や市役所とかに入っている、僕の世代ではまだ中間管理職で思うこともなかなか実行できない。そういう中で、私も市長を目指して就任してちょうど6ヶ月経ちました。今、変えられるものは何か、変えなければならぬものは何かについて考える中で、私はプレイングマネージャーと自分では言っていますが、全体を知って、どんなセクションにでも入っていく。自分はそうあるべきだと思っていますし、その中で、基礎データ、静岡県のいろいろな行政に関わる中で、静岡県の中の伊東市の状況、それから、伊東市で過去取ってきたさまざまなデータ、例えば、平成3年頃の観光入込客数はピークだったが徐々に落ちていっているということとかの基礎知識はあるんですよね。そこが共有できていないと、例えば、少子化が進んでいる中で、昨年子どもがこれだけしか生まれなかった。今年はまだ分からないんですけど、それよりちょっと下がりそうなんですね。まだまだ歯止めがかからない。そういう中で、今までもお渡した部分もありますけれど、今、言ったような全体を考えるためのデータをもっと広くわかりやすく提供していこうかなと思います。

(H委員)

データというより分析ですね。それをこうやって読むんだよと言ってくれると非常に分かりやすいと思います。僕は生まれていますが、平成3年のすごい頃を知らない人たちがほとんどじゃないですか。そうすると、あのとき何がすごかったのだろうかという、その分析がないと、やっぱりそれに紐がつかないと理解度にすごく差がついて、大先輩たちの認識と僕らの薄っぺらな認識、今あるものでしか判断できないので、やっぱり評価がないとだめだと思います。その辺をぜひお願いします。

(市長)

ありがとうございます。

私は、小学校は西小学校で北中へ通っていました。通学路が今のキネマ通りとか中央アーケード、当時は劇場通りと言ったんですけど、ものすごく人が溢れていました。今、どの時間を見てもまっすぐ突き抜けて見えるので、20人いたらすごいなというような状況ですが、当時の私の認識では、朝から夜まで必ず人とぶつかる。そのぐらい人が溢れていて、今は懐かしの遊技場みたいなのがありますけれど、スマートボールとか、ああいうのが普通にあって、浴衣を着たお客様が下駄を鳴らしながら歩いているのが普通の状況でした。やっぱり、それを知っている自分、その頃はこういうことで今言ったデータの裏付けというか、分析、そういうことは自分で大体勝手に理解していると。例えば、平成生まれの方や40歳ぐ

らいまでの方は、バブルという時代を知らないですよ。ですから、その頃の個人消費が何で多かったのかということ。例えば、不動産価格も今では驚くかもしれませんが、市内で1坪単価が100万円以上の土地が軒並みありました。今では、こんな1等地なのに、例えば10数万円とか、それでも売れないという話がいっぱい出ます。やはりそこをどう分析するか、逆に言えば、世の中のニーズがどのように変わってきたか。買うのではなく利用するというか、求めてきたものが変わってきたというところをもう少し分かりやすく分析したものを提案していきたいと思っていますので、そういう中で問題意識が共有できるのではないかと思います。

私自身も昭和の終わりに自分の会社をスタートしまして、製造業なものですから、ものすごく良いという時代は知らないですけど、気がついたらなんとなく駄目になっていた、全部が駄目になっているというようなことが、例えば、茹でガエルの話がよくありますよね。お風呂に入っていて気がついたら茹で上がっちゃっていたというような状況が近年見られるようになったということだと思っていますので、そういうことが、この先の10年先、20年先の将来の伊東市民に起こらないように、今からこのメンバーで、まずたたき台を作っていきたい。それがこの会議の元々の趣旨でもあるので、今、いろいろといただいたものの中で問題提起というか、意識を変えるというものを、またいろいろな場面で作っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

それでは、I委員、お願いします。

(I委員)

改めまして、こんばんは。

最初に、この会議に対する私の個人的な感想になりますが、委員の皆さんからのさまざまな意見が出る中で、その意見に対して行政側が動いてくださっているなという感覚を肌で感じることができて、今までは日頃、行政に対して余り自分に主体的な思いがなかったのですが、改めてこういう場に出させていただくと、行政に対しての主体的な思い、こういうものを抱かせてくれるような貴重な経験をさせていただいている会議だと思っています。

会議の進め方やスタイルについてですけども、私は、1番最初にこの会議に出てくるときに、何かの1つの議題に対してみんなで討論し合うのかと考えており、私はそんなに知識もないし大丈夫かなという不安がありました。このように、1人1人が持ち時間の中で意見を発表できるというスタイルは、逆に、その議論、ディベートとか、そういうものに比べるとよかったのではないかなと思っています。1人5分程度という持ち時間の中で、話しを絞るといふ難しさや、意見を述べたあとは、ただ聞いているだけということを我慢するという人も中にはいるかもしれませんが、1人1人がフリートークというふうな形で話せたスタイル、これは良かったのではないかなと思っています。

今後のあり方についてですが、改めて市長の所信表明を読ませていただいて、3本の柱がある中で、1本目の柱はまさにこの会議かなと思います。会議で取り扱ってきた内容、先日来行ってきたグループワーク、これがまさに3本目の柱「みんなが暮らす伊東市」の中の子育て支援だったと思います。2本目の柱「みんなが楽しい伊東市」という中で、シティプロモーションが議題として上がっていましたが、それよりも別の切り口で、にぎわいの創出の部分であったり、あとは、生涯スポーツのまち伊東、こういったテーマについてもあって良かったのではないかなと思います。次の会議のときには、そういった切り口もあっても良いのではないかなと思います。

そしてもう1つ感じたことですが、我々がこういった場で意見を述べて、市長や行政の執行の方々に意見が行って、それが市役所で働いている方々に対してはボトムダウンで落ちてくるというような構図だと思うんです。逆に市役所で働かれている方が、こういうことを未来ビジョン会議にかけてもらいたい、未来ビジョン会議にこういう議題を出すかどうかのような意見がもらえるのかなっていう、逆方向の意見のボトムアップからのボトムダウンみたいな、そういった方向でこの会議を使っていただくのも1つの案としていかがでしょうかということをおもいました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

行政は、まさしく市民の皆さんが動かすというところを実感してもらっているのかなと思います。これから来年度の予算編成等を進めていく中で、どこまで皆さんの意を汲み取れるかということも大きな課題ですが、行政の1番の悩みは予算です。いろいろとやりたいことに市民の皆さんからいただいた税金をどうやって分配していくか。そういうことを考えると、結局、ない袖は振れないというところでいつも躓きます。そこで、それを乗り越えるようなもの、例えば、国の補助金とか国の独自のメニュー、そういう交付金を探してくる力が必要なのですが、それを探してくるのは市職員の仕事です。こういったこともここで熱く語ってもらえらうほど、同時に私もトップセールスでどこにでも行きますけれども、そういうことの積み重ねが、1番問題となる具体的な課題を乗り越える根本になります。

さきほど、会議の方法としては、ディベートよりは1人1人の発言方式のほうがよかったということでもありますけれども、それは、グループに分かれたときにはまた変わるとも思います。そういうことも含め、もっともっと積極的に発言していただければと思います。

それから、「みんなが楽しい伊東市」の賑わいや生涯スポーツ、これはもうI委員さんの得意なところですけど、私もいろいろなところに行きますから、あんな体育館があったらいいな、あれをみんなが欲しがっているんだよな、例えば、こういう屋内プールがあったらということ、いろいろなところを見るたびに思います。さっきも言いましたけれど、臼杵市に行ったら小さい街なのに、すごく多彩な公共施設があるということも見て、伊東市でもできるだろうということ、そういうところを掴んだり、そういうところをこれからまたご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。それから、市の若手職員から提案をこの会議に出してもらおうということも1つの方法だと思います。それは市の職員だからということだけでなく、ここにいる1人1人の方はですね、今度これをみんなでやりたいということ、これを提案してもらおうのも良いのではないかなと思いますので、それも含めて、ここにいる方々以外の方からの提案、もしくは、現場で働く市職員からの提案、そういうものも協議できるよう考えたいと思います。

それでは、J委員お願いします。

(J委員)

よろしくお願いします。

ここまで、グループワーキングが良いとおっしゃっていた委員が多かったんですけど、私も賛成で、ディスカッションとかできてすごく良かったなと思ったんですけど、1グループ

に対して事務局の方を1名置いていただいて、どんどん進行してもらい、書記もやってもらえると、議論がどんどん進むし、いろいろな意見が聞けるんじゃないかなと思いました。

あと、グループワーキングの際は、テーマをもっと具体的にというか、前は、子育てしやすいまちづくりだったのですが、その中でも細分化できると思うんですね。1グループに対して子育てしやすいまちづくりの例えば情報発信だとか、少子化対策だとかという、グループによってそういう細分化したテーマを設けると良いかなと思いました。

例えば、このような意見を言うときは、やっぱり時間が足りないので、どうしても委員に対して質問だとかディスカッションっていうのができないので、前もってメールで意見を提出していただき、まとめてもらっておくと良いかなと思います。具体的には、用紙に起こしてもらって、1人ずつ書いてもらい、事務局の方から紹介し、それに対しての質問があれば、直接その委員さんに質問してもらおうという形で、最後にその下に意見を書いて提出するという形であれば、その委員の意見に対して自分がどう思っている、みんながどう思っているということが分かるかなと思いました。

最後になりますが、さきほど、街の活性化の話が出たついでですけれど、この前、初めてキネマーケットに参加しまして、鹿のソーセージを売ってきたんですけれども、商店街がすごく元気になって良いなと思ったので、あのような商店街のイベントをもっともっと頻繁に行っていただければ、街に元気が出るなと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。

グループワーキングの際に、書記がいたらもっといろいろとスムーズにいくっていう意味ですよね。そのとおりですね、それは検討させていただきたいと思います。それもここにいる人ではなくて、なるべく若い世代がいいですね。それはお任せください。

それから、大きなテーマではなくてもっと細分化したほうが良いだろうということですね。例えば、子育て政策も幅広いですね。ですから、それも含めて次にグループワークで何かテーマを決めようという際にはそのようにしたいと思います。そのためにグループ分けしていくという意味もあると思いますので、そのようにさせていただきます。

それから、事前にメールでご意見を寄せておいて、それが一覧で委員さんのほうに来て、例えばJ委員はこういう意見ですと、当日発表はするものの、何かあれば事前に言っておいてくれということで、またそれを違う委員が意見を書き加えてやるということですね。そういう準備というのは確かに必要だと思いますので、わかりました。

最後にキネマーケットに参加していただいたということで、とにかく定着してきたものですから、あの日は人が多く出ます。ところが翌日は誰もいない。それをどうやったら恒常的にみんなが街に出たいなと思えるような、お客さんもちょっと行ってみようかなと思えるような企画を考えていくというのが大きな課題ですけれど、絶対にできます、それは、またここでまとめていって、ソーセージももっと付加価値をつけてみんなに喜んでもらえるようにしていきたいと思います。

それでは、K委員お願いします。

(K委員)

こんばんは。よろしくお願いします。

発言の順番が逆になって、ちょっとほっとしております。

今日、私は、この未来ビジョン会議のPRについてお話ししたいと思います。

前回、子育て支援について3グループが提案していただいて、それぞれみんなすばらしい提案ができたなと思って、すごく嬉しい思いで帰りましたが、その何日か後に伊豆新聞を見たところ、2つの施策提案は載っていたんですけども、私が「すごい」と、この着眼点良いなと思った専門学校の誘致案については全く触れられていなかった。あれって思い、すごくがっかりしたのが正直なところで、やはり新聞というメディアっていうのは記者の方が書かれて集約されるものなので、実際のこの臨場感であったり感動であったり、会議そのものが100%伝わる内容ではないなと思ったときに、個人的にこの記事フェイスブックで書きたいなってすごく思ったのですが、この会議に7回参加して、非常にフランクな会議の場ではなくて、ちょっと写真を撮るのもなかなかばかられるような、緊張感の中の会議ですので、果たしてフェイスブックに自分の思いを載せていいのかどうか、そういうこともわからなかったので、行政経営課の事務局の方にも写真を撮ったり個人的な意見をフェイスブックに載せていいですかっていうことを質問したら、ぜひ、次回の会議で提案してくださいと言われましたので取り上げさせていただきました。

皆さんにそれぞれ個人情報ですとかいろいろな制約があると思いますが、私はこの7回の会議に出席した中で、実際にケーブルテレビをご覧になった方から、「見たよ」とか誰々さんいたね、みたいな声掛けはしていただいているんですけども、あいにく私の住んでいる地域ではケーブルテレビが見られない状況で、どういう形で取り上げられてるのが全く分かってない。ただ、声を掛けられるんですが、残念なことに、その中で議論されていた内容について聞かれたとか、こうだったねということはなかったんですね。そういう声を掛けられたことが1度もなくて、逆に、私がこんなこと話したよ、あんなこと話したよっていうのを口伝えで話した際に、ああそうなんだ、こんなこと話しているんだっていう、そんなやり取りが多く、先日、市のホームページを拝見させていただいたら、それぞれ委員の名前は伏せられていますけれども、今までの議論の文字起こしがされていて文書化された議事録が掲載されていたので、事務局の方たちがすごく骨を折って議論の内容を市民の皆さんに伝えようという、その思いはすごく感じるんですけども、実際にそれが届いているかという、まだまだその認知度が市民の方たちには低いかと思った際に、フェイスブックですとかツイッターですとかインスタグラムですとかいろいろなSNSがある中で、やっていらっしゃる方ややっていらっしゃらない方、それぞれだと思いますが、一律のルールみたいなものは、なかなかできないのかもしれないですけども、こういうことを感じたよ、市の行政は実はすごく敷居が低くていろいろなことをぶつけていいんだよっていうことを、もし市民目線で草の根で発信ができれば、また、そのことも自分たちが関わっている人たちに草の根でどんどん発信していく。そして未来ビジョン会議っていいねって言っていただけるような契機になるんじゃないかなと思って提案をさせていただきました。

(市長)

ありがとうございました。

フェイスブックとかSNSによる投稿についての提案ですけど、基本的にメディアが来ますよね。公開しているっていうことですよ。今まで余りそういう積極的な話がなくて、それぞれの委員が会議の内容を発信することについて議題にならなかったものですから、あえて私からも言わなかったんですけど、やられて結構だと思います。この会議につ

いては基本的には公開であって、委員のお名前だけは伏せているような形になりますけれども、10数名の方がそれぞれの団体から委員として参加していると。この場でこういう議論がされてこういう結果が出たということをして1人1人の委員の持っているもので発信していたらと思っただけだと思っています。

それから、ケーブルテレビもやっぱり地域ごとに映らなかつたりしますので、そのことも含めて、ぜひ、委員の皆さんに情報発信をお願いしたいなと思います。

それから、新聞の話が出ましたので私の主観でいいますと、大事なことを読み取ろうと思うときは1紙では絶対だめですね。私も相当いろいろな新聞を読むわけですね。皆さんもわかると思いますけれど、いろいろな考え方がありますよね。テレビもそうですね。局によっていろいろな発言があつたり、また出る人や番組の構成によっていろいろと違いますよね。どれかに決め込んではいけなないと。ちょうど今言われたことが当てはまるかなと思いましたので、私の主観ですけれども、そういうことがありますよね、世の中って。だから、広く情報を集める。その中に、今、本当に便利になったSNSというコンテンツがありますから、ぜひ、活用していただきたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、L委員お願いします。

(L委員)

よろしくお願いします。

この会議に7回出席させていただいていますが、ここでマイクを持って発言することは、毎回、本当に緊張します。ここまで皆さんすばらしい意見で、本当にうなづくことばかりだったのですが、私もグループでの発表もグループワーキングもとても意味のある大変すばらしいものであったと思います。ここでマイクを持って話していると、どうしても対行政の方になっていて返事をいただけて嬉しいことと、あと、それを実現していただくという、その考えが聞けてうれしいんですけども、また、こちらの委員の皆さんの意見も聞きたいなということもあります。ただ、さきほども市長が言われましたが、最後に意見がありますかと皆さんに問いかけても皆さん8時半までにという時間が気になって、ちょっと控えようかなという気持ちがあつたりするのも事実なのかなと思います。なかなか発言しづらいこともあるかと思いますが、それで、私の経験ですけれども、私は家庭教育委員から代表で来させていただいています。それは、小学校、中学校の母親代表がそれぞれ2名ずつで30人程度ですね、議題があつて集まることと、市内の施設を見学したりすることがあります。毎回、いろいろな理由で集まりますが、大体、年に6、7回あります。それで私が1年目に初めて出させていただいた際は、大変真面目な委員長の方で、議題に沿って皆さんで話し合おうという形で、1校ずつ全校が発言をするような形だったんですが、次の年に2年目に出させていただいたときは、真面目な方ですけれども、今までとはちょっと違った委員会にしていきましょう、フリートークの感じで皆さんでディスカッションする形にしましょうということ、議題を設けず、何か意見ありませんか、学校の中で困っていること、うちの学校は今こんなことで困っているんだけど、問題があるんだけど何かあったらざっくばらんに話してくださいという形にしたら、最初のうちは委員長の方もこんなやり方では多分話が出なくて今日は1時間ももたないかな、30分で終わるかなと心配されていたんですが、逆に皆さんも白熱して2時間以上もかかってしまって、うちの学校では、今、本当にこういうことで困っていますと、うちではこうしているよということ、本当に皆さんが意

見を出してくださって、同じことを共有することができて、とても意味のある時間だったなと思いました。それからは、毎年のようにその会の中で1回、2回はそういうディスカッション形式で皆さんがその場で意見を言い合えるような会議を持っているそうです。ですから、もしできたら、この会でもそういう形でできれば良いなと思いますし、せっかく皆さんがいろいろな団体からいらっしやっていて、1番最初の会議のときにも自分の所属する団体に関係するお話をされている方もいましたが、夜の街がちょっと寂しくなっているとかいろいろな問題点があったりですとか、ここをこうしたいなと考えていらっしやる方とかいらっしやると思うんですね。それが大きな話ではないかもしれないですけど、今までのようなシティブロモーションとか子育て支援とかという形ではないですけど、1つ1つ小さなことからみなさんでいろいろと話し合っていけることもすごく良いかなと思っています。

それから、この間北中学校の「おやじおふくろの会」というのがありまして、これに参加させていただきました。3年ほど前まではおやじの会だけだったのですが、去年からおふくろの会というのも加わりまして、先生方と父兄の方ですね、希望者のみになるのですが30人程度が集まって2時間ちょっとお話をさせていただいて、やはりそういう席でもお酒が出ますので、飲める方は飲んでという形でお話しさせていただくんですが、やはりお酒がちょっと入ると、学校の会議室とはまた違った場所だといろいろなお話ができたりとかしてとても良かったなと思います。ですので、マイクを持ってしゃべるのではなく、ちょっと皆さんお気軽にお話ができたらいいのかなとも思いました。

また、ちょっとこれは余談になりますが、私もこの会に出させていただいて、市長を始め市役所の皆さんにお話をさせていただいて、それが聞き入れていただけた際のすごくうれしい気持ちがあったり、声が届くという実感を味わえて、この前、そのおやじおふくろの会で教頭先生とちょっとお話しをさせてもらった際に、以前から息子が中3だということはずっと話させてもらっていますが、今、社会の授業で伊東市について勉強しているそうです。この前もグループごとの発表があったということで、グループごとにいろいろと内容は違ったようですが、伊東市の問題点ですとか、観光でこういうのがあったらいいのにとか、教育の費用が他の自治体と比べると長泉町は6万円なのに伊東は1人当たり幾らなんだとか、本当に具体的ないろいろなことを子どもたちがみんなインターネットを使ったりだとかして調べてきたそうです。そういうのは行政には届かないんですかって、学校で発表して教室だけでおしまいなんですかっていう話をさせてもらったんですね。そうしたら社会の先生がいらっしやったので、個人的に知っている市役所の方には子どもたちがこんなすごくいい意見を言っているってことをお話ししているって言うておりました。それがまたそこで止まってしまうのもちょっと残念だなとも思いましたので、市長も市役所の中でランチミーティングをされているとかという話を伺いましたけれど、今度は中学校に行って子どもたちと直接お話ししていただくのも良いのかなとか、あと、北中でまとめたことを市役所のほうに持ってきてもよろしいんですか。中学校のほうと掛け合って、まとめてもらったものをお持ちしたい、見ていただければなど。子どもたちのユニークな意見や大人では考えられないような意見があったそうなので、ぜひ、目にしていただければうれしいなと思います。

あと、この前、給食の話をさせていただいたあとに、偶然かもしれませんが、市長が給食センターのほうに出向いていただいて試食をしていただいたという話を南中で働くお母さんから聞きましたので、そういったことで、子どもたちの給食に対する考え方や意見も直接聞いていただけるのも、親が聞いたものよりも子どもたちの率直な感想なども聞いていただけるのもありがたいなというふうに思いました。



以上です。

(市長)

より具体的にいろいろとお話しいただきまして、ありがとうございます。

フリートーキングのほうがいろいろなお話ができて意見が出るということだと思いますけれど、本当にそうですよね。この会議もそんな感じから始まっていますけれど、それに対してのご意見を伺う時間、スケジュール的なものがなかったものですから、それはまた1つ考えておきたいと思います。

それから、中学3年生による将来の伊東市についての発表については、もしかしたら教育長は知っているかもしれませんが、具体的に私はまだ聞いていなかったものですから、そういう風通しの良さは考えたいのと、例えば、実際に私が給食を学校に食べに行つて、そこでいろいろと話を聞くというのも1つのアイデアだと思いましたので、これから考えたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、M委員お願いします。

(M委員)

よろしくお願いします。

相変わらずこういう場では緊張するのですが、今回のテーマ、今後の未来ビジョン会議の進め方、あり方について、個人的に思ったのは、この会議でのテーマが正直ちょっとざっくりしていて、私自身が考えて意見を出すのがなかなか思い浮かばなくて苦労しました。今回のテーマも前回のテーマも正直なかなか私のほうから参考になるような良い意見が出せないのかなと感じていました。テーマをもう少し掘り下げていただけると助かるなと感じたのが素直な気持ちです。

今回の今後の会議の進め方、あり方ということですが、僕は、テーマとしてこの会議で話し合えたらなと勝手に考えていたものが1つありまして、伊東市に人を集める方法をこの場の委員さんたちとみんなでお話できたらなと思いました。この会議の委員さんに選ばれている方々はいろいろな職業の方がいらっしゃいますので、その方の意見を聞いてみたいと思ったのと、あと、僕が最近感じているのが、僕の同年代ぐらいの人たちが地元での就職を選ばない、地元に残ってくれないというふうに感じています。私自身は、地元の高校を卒業してすぐ入りましたので、外というか一人暮らしもしたことないし、実家暮らしなので、余り外は知らないのですが、例えば、東京とか横浜とかは、遊びに行く場所だっているイメージなんですけど、僕の同級生だともう大学を卒業して社会人1年目の年になっているのですが、大学を卒業された方もなかなか伊東に戻ってきて就職するっていう方が少ないと感じました。何で少ないんだろうと考えると、伊東に魅力が少ないのかなと考えてみたんですが、伊東の魅力は、私は出張で静岡県内をいろいろとあちこち飛び回ったりするんですが、静岡県の中でも伊豆って結構魅力あるところだなと感じたのが素直なところですが、西では浜松の方に行きますと、海、山はありますが、観光場所としては伊東の方がたくさんあるなって思いました。景色も伊東の方がきれいだなって思ったのが、自分がこの23年間生きてきて、改めて感じたところでした。

伊東に魅力がないわけではないなと思うんですけども、それでも伊東に人が集まらないなと感じていました。熱海と比べるとアクセスの面では新幹線がないので難しいかもしれませんが、伊豆半島の中では伊東はアクセスが良いほうだと感じていますので、何か人を集める方法がもっとないのかなと思った際に、ざっくりなんですけど、もっと人が集まる場所として、お祭りってあるのかなと考えました。自分が参加するような伊東市のお祭りって本当に限られていまして、すみません、お恥ずかしい話ですけど、伊東市のホームページを見てイベントを検索すると、毎月、いろいろな行事をやっていて、お祭りじゃないですけども、コンサートですとか花火大会とかいろいろなイベントがたくさんあるんだなっていうのを知りました。自分が知らなかったのも恥ずかしいですが、この中で私が参加するイベントやお祭りは限られるな、本当に片手の指で数えられる程度だなとも思いました。

お祭りとなると、観光客の人も地元の人もいろいろと集まってくれるだろうなというふうにありますし、今ここで皆さんのお話を聞いていたら、意外といろいろな人がお祭りをやっているなあとイベントをやっているなあと聞いたので、この話をするのも内心、正直びくびくしていたのですが、もっとお祭りをやってほしいなと思ったんですけど、例えばですけども、最近、今年の秋、横浜のほうで自分が初めて参加したんですけども、オクトーバーフェスタという多分ドイツの伝統的なビールのお祭りだそうで、そこでは、ビールを飲む、ソーセージを食べるみたいな感じのワイワイガヤガヤしながらみんなで飲むというようなイベントでした。そこには初めて参加したのですが、知らない人ともワイワイガヤガヤしながらお酒を飲み、ドイツの民俗的な民謡なんかみんなでライブみたいな感じで歌ったりしてすごく楽しかったなあと感じました。それをやってくれって言うわけではないですけども、そういうのがやれたらなとも思いました。

あと、お酒を飲むところはきっとたくさんお金を落としてくれる場所の1つでもあるかなと思います。

お酒を飲めるといふか、お祭りについて、きっとこの会議の委員の方ならいろいろな意見とかも聞けて、良い考えが反映されてくるんじゃないのかなと思ひまして、この意見を出させていただきました。

さきほど、鹿肉のソーセージの話がありましたので、ドイツビールのお祭りなんかをもし伊東でできたら、早速鹿肉が出るのかなと思ひましたので、ぜひ、あったら良いなと思ひました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。

今までは議論のテーマが大きすぎたということだったと思ひますけれども、さきほどから、いろいろと意見が出ていますので、また絞り込んでいきたいと思ひます。

それから、伊東にもっと人を集める方法につきましては、委員の意見をもうちょっと聞けるような形にしていきたいと、それは私も感じております。

また、M委員の同世代の話だと思ひますけれども、地元に残りたがらないと言ったほうがいいのか、残りたくても残れないと言ったほうがいいのか、就職の門戸が狭いと思ひますよね。賃金を比較しても、大手企業に比べたら市内の中小企業は相当低いです。そういう中で、そういう面ではなかなか魅力がないかもしれませんが、M委員が言っているように、伊東の魅力というのは外に出れば出るほどよくわかるわけですし、そういう中で先ほどお話し

出たお祭り、イベントですが、例にあった、ドイツビールとかソーセージを食べるオクトーバーフェスタ、そんなことがきっかけで、逆にこのメンバーで新しいイベントを1つ作る、そんな意気込みも感じさせていただきたいなということも思いましたので、それを付け加えさせていただきたいと思います。

大体時間になりましたが、もしかしたら、もう一言という方もおられるかもしれませんが、残りの時間を見まして、これで大体意見をいただいたということにさせていただきたいと思います。また、大変率直なご意見が多かったと思いますので、これを参考にさせていただきたいと思います。

今回いただいた意見を踏まえて、今後の未来ビジョン会議のテーマや進行方法等については考えていきたいと思っております。

それでは、副市長を始め当局の皆さんから一言ずついただくことといたしますが、10分以内にまとめたいので、1人2分で一言ずつお願いします。

(若山副市長)

貴重なご意見をありがとうございました。

特に参考になったというか、どきっとしたのがH委員から言われた、問題意識を持たせてほしいということ。それは、私たち市の幹部と言われている人たちからということで、そこは肝に銘じて、どういう形でお話ができるか分かりませんが、これから常々意識して行きたいと思っております。ありがとうございます。

(佐野副市長)

今日のテーマ自体も本当にざっくりしているなと思う中で、本当に皆さん真摯にすごく丁寧に考えてくださって、本当にありがとうございます。

皆さんが本当に伊東市を愛していることがこの会議でわかった中で、もう少し、本当により議論が深まって、これいいね、あれいいね、みたいな形で議論が活発になるような場を本当に作れたらもっと良いかなということをつくづく思いましたので、そういう形で、また検討させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

(教育長)

本当にいろいろなご意見をいただきまして、自分も勉強させていただいております。

特に、前回の発表のときですね。市民目線ということで、本当にいろいろなご提案をしていただいて、自分の持っていない視点をいただいたことに、非常に感謝申し上げたいと思います。

教育については、これからはAI、人工知能ですよね。これがどのようになっていくのか、この問題が今後、非常に大きくなっていくんじゃないかなと感じています。その辺もまた議論していただく中で、伊東の子どもたち、また、伊東市民の生涯学習ですとか、そういうことについて教えていただけたらなということをつくづく思いました。

毎回、本当に前向きな議論で、また、ここへ参加させていただいて毎回勉強させていただいているということでございます。

本当にありがとうございます。

(企画部長)

ご意見ありがとうございました。

大体、皆さんおおよそグループワークをやっていったらどうかという意見が多かったと思っています。そういうことで、今後、グループワークをやっていくということで考えていきたいと思っております。

テーマにつきましては、人によってはテーマを設けなくてやったらいいというご意見もありましたし、逆に、細分化をしたほうがいいというようなご意見もありました。ただ、全体的に皆さんおっしゃるのが、来遊客のお話しですとか、活性化ですとか、人を集めるとかという、そんなテーマが比較的多くの委員の皆さんからのご提案にあったのではないかと思いますけれども、テーマをどう設定するのか、グループ分け、人数、事務局の役割、そういったご意見をもう一度事務局のほうで検討させていただいて、次回の会議の中ではある程度具体的な姿をお示しできるように少しお時間をいただきたいと思っております。

ありがとうございました。

(市長戦略監)

お疲れさまでした。

この未来ビジョン会議は小野市長の公約でありまして、私どもも初めての試みで、まとまっていくのかなと思ったんですが、今日のご意見を聞いていて、まずは、この会議は成功だったのかなと思っています。ありがとうございます。

(市長)

ちょうど時間となりましたので、これで本日の会議は閉会とさせていただきますけれども、本当に有意義な時間となりましたことを感謝申し上げます。

ありがとうございました。終了といたします。お疲れ様でした。

(事務局)

最後にお知らせいたします。

来年の日程ですが、決まり次第、ご連絡させていただきますので、来年もご出席をよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。